

部局名： 教師教育開発センター

部局長名： 三村 由香里

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<p>⑤センター・機構等業務</p> <p>※センター・機構等の業務に関する目標についてご記入ください。</p> <p>1. 教師教育開発部門                      (1)全学教職コア・カリキュラムを着実に実施する。                      (2)教職課程認定学部教員を対象とした全学教職課程FD研修会を継続して実施する。                      (3)全学教職コア・カリキュラムに係る教材の内容を検討し、必要に応じて改訂する。                      (4)全学教職コア・カリキュラムを、教員養成の質保証の観点から、有効性の検証を行うとともに、改善に向けてさらなる研究開発を推進する。                      (5)教育学研究科・教育学部並びに岡山県教育委員会等との共催により、岡山県が推進する「校内OJTチーム」を活用した「授業力パワーアップセミナー(若手教員授業力向上支援事業)」を開催する。</p> <p>2. 教職支援部門                      (1)指導体制や指導内容の充実を図り、利用者の要望に応える教職相談室運営を進める。                      (2)高年次教養科目「教師力養成演習」を円滑に実施し、内容の充実を図る。                      (3)教職の魅力を伝え、教職への意欲を高めるガイダンスを行う。</p> <p>3. 教職コラボレーション部門                      (1)岡山県教育委員会、岡山市教育委員会、岡山大学の持つ課題に対応し地域の教育力向上に寄与するために、三者の連携協力を推進する。                      (2)スクールボランティアの意義を学内に啓発するとともに、活動する学生数の増加を図るために、スクールボランティアオリエンテーションの実施等により学生への情報提供等を行う。                      (3)スクールボランティア支援システム(VALEO)を安定的かつ効果的に運用するとともに、利用者の拡大に努める。</p> <p>4. 理数系教員養成事業部門                      (1)学生及び現職教員の状況を踏まえ、受講者の進路やニーズに対応してCST養成プログラムの実施内容の改善を行う。                      (2)岡山県・岡山市教育委員会、小・中学校の教育研究会等と連携し、理科ステップアップ研修会をはじめとする理科教育推進のための研修会を実施し、若手教員を中心とする教員の指導力向上や授業改善を援助するとともに、地域や学校におけるCSTの活動を支援する。                      (3)CSTの養成及び活動支援のための教材・資料を開発・作成し、それらを活用した授業を提案するとともに受講者の意見を反映して改良し、それらの普及に努める。                      (4)CST及び地域や学校からの要請に応じて、理科の研究会や研修会実施のための授業づくりや指導案作成等に対して積極的に協力する。</p>	<p>センター・機構等業務の目標の達成状況</p> <p>1. 教師教育開発部門                      (1)全学教職コア・カリキュラムの一環として、1年次対象に「全学教職課程履修説明会(4/4)」、「全学教職オリエンテーション(5/8, 5/10, 5/22, 5/24)」、「母校訪問」及び「母校訪問事後指導(10/23, 10/29)」を実施した。また授業としては、「教職入門」(2年次対象)、「教育実習基礎研究」(3年次対象)、「教職実践演習」(4年次対象)を実施した。                      (2)教職課程認定学部教員を対象とした全学教職課程FD研修会は、例年、各学部からの要請に応じて実施している。今年度は農学部(9/19)、文学部(10/23)、理学部(11/27)で、各学部とも30分～1時間程度の時間で実施した。                      (3)全学教職コア・カリキュラムに係る教材の内容検討の一環として、母校訪問の実施に係る補助教材の改訂、「教職論」ならびに「教育実習基礎研究」で用いている各種教材の改訂、教職実践演習に係る「学生用ガイドブック」ならびに「指導者用ハンドブック」の内容の改訂を行った。また、今年度より新しい教育職員免許法が適用となる平成31年度(令和元年度)以降入学生を対象とした『教職課程履修ハンドブック』を全面的に改訂し、第4版を刊行した。                      (4)教員養成の質保証の観点から、全学教職コア・カリキュラムの有効性を検証するため、受講者調査を行い、得られた結果をセンター運営委員会及び全学教職課程運営委員会においてその都度報告し、回答傾向について検証するとともに、授業改善への具体策を検討した。                      (5)岡山県教育委員会(津山教育事務所)との連携・協働のもと、同事務所管内の公立中学校1校(3チーム)と8小学校を対象に、教育学研究科と協働で「授業力パワーアップセミナー」(6/27, 8/6, 12/26)を実施した。受講者は先輩教員12名、若手教員14名で合計26名であった。また期間中、本学教育学研究科教員等による中間訪問指導も充実させ、延べ35人の本学教員の参加を得た。                      (6)その他、令和元年7月23日に、中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会教職課程の基準に関するワーキンググループ(第4回)にて、「課程認定後も全学的に教職課程の質を保証し、向上させるための継続的な仕組み」の事例として、また、6月17日開催の日本教育大学協会の意見交換会においても同様に、本センターの取組を報告した。また令和2年2月28日には東京学芸大学のフォーラムにて「教員養成大学・学部における大学教職員の研修」の事例として本センターの取組を報告する予定であったが、新型コロナウイルス対応のため延期となった。ただし、同学フォーラムの年次報告書には本センター提案資料の掲載が決定している。</p> <p>2. 教職支援部門                      (1)本年度も教職支援部門の教員に加え、教職コラボレーション部門所属教員2名の応援を得て、昨年度並みの相談枠を確保することができた。また、新たに学内イントラネットを活用した「面接練習予約システム」を構築し、学部教員8名の協力により、延べ96名の学生の利用へ広げることができた。これらの結果、本年度も年間延べ利用者数は、5,000名を上回ると予想している。                      (2)教科化2年目の「教師力養成演習」の履修者は53名と、昨年度の103名を大きく下回った。学生への情報提供が不十分だったことを踏まえ、次年度に向けて改善を進めている。また、本年度も6名の外部講師を招聘し、岡山県・岡山市の教育委員会からも4名招き、専門性の高い演習内容にすることができた。受講した学生の満足度は各回とも高く、最終回での振り返りに対して「講師の先生の講話について考えさせられた」と回答した割合は100%に達した。                      (3)本年度も教育学部就職・学生委員会主催「教職ガイダンス」を共に企画・運営した。特に本年度は教職コラボレーション部門との連携により、岡山県・岡山市教育委員会との連携協力事業の取組として実施することができた。このことにより、1年生から3年生まですべての学年を対象としたガイダンスに総計65名の現職教員・管理職を招聘して少人数グループで対談する機会を設けることが実現できた。また、3年生対象の、教員採用試験合格者33名の体験談を聞くガイダンスには、昨年度を大きく上回る150名の3年生の参加を得ることができた。</p> <p>3. 教職コラボレーション部門                      (1)岡山県教育委員会及び岡山市教育委員会との連携協力会議を経て、それぞれの課題の解決の為に、以下の3つの専門部会を今年度新たに設置した。〔 〕内は目的等の概略                      ①教職ガイダンス(現職教員との交流)専門部会〔教職を志望する学生の増加〕                      ②岡山大学連携研修講座専門部会〔県市の教職員研修への学生の参加数の増加〕                      ③附属学校園地域連携専門部会〔附属学校園の地域連携の具体化〕                      ①については、教職ガイダンス(1, 2年対象 現職教員との交流)を企画し、県市教育委員会の協力を得て、教育学部就職・学生委員会と共同で実施した。学生のアンケート等から、教職への不安の解消や意欲の涵養に繋がっていることが確認できている。                      ②については、新たに岡大サテライト研修を県市の研修に組み入れ、参加学生数の増加とともに、アンケート等でも高評価を得ている。                      (2)スクールボランティアについては、岡山市VALEOへの9月30日時点の登録者はH29(162名)→H30(983名)と大きく増加したが、H31は(726人)だった。そして、実働数はH29(186人)→H30(177人)であり、登録者数の増加が実活動者数の増加にはつながっていない。部門としては、今後も教員を目指す学生にボランティアの意義を啓発するとともに実活動者数の増加に向けて情報を提供したい。                      (3)「スクールボランティア支援システム」VALEOについては、H30年度以降継続して安定した運用が行われている。</p> <p>●客観的指標の推移                      ・スクールボランティア登録数H30: 983人→H31: 726人                      ・岡山県・岡山市教育委員会が実施する研修会等への学生の参加数H30: 38人→H31: 56人</p> <p>4. 理数系教員養成事業部門                      (1)学生の授業の履修状況、現職教員の勤務状況を踏まえ、CST養成プログラムで実施する講座等の内容や方法を見直し、必要な改善を行うとともに状況に応じた運用に努めた。                      本年度の学生CST養成プログラムにおいては、第八期生(令和元年度生)12名が初級CSTコースに新たに参加し、第五期生及び第七期生の11名が年度末をもってプログラムを修了した。また、現職CST養成プログラムにおいては、第九期生(令和元・2年度生)7名が新たに参加し、第八期生8名が年度末をもってプログラムを修了した。                      なお、学生CST養成プログラムについては、整理・統合した講座群が変化する大学教育に対応できるか検討を行い、より適正な実施ができるよう検討を行っている。また、現職CST養成プログラムでは、土曜日を中心に年間21回の定例講座を設定し、個々の勤務状況に応じた受講ができるようにするとともに、学校現場の働き方に対する捉え方の変化や、複数校兼務の専科制の実施など、変動する勤務環境への対応が求められる現職教員を支援するための内容等も工夫した。                      (2)岡山県教育委員会と連携して地域の理科教育の推進とCSTの資質・能力の向上を図るための理科ステップアップ研修会を県下7会場の小・中学校で開催し、各会場にCST担当者が出席し、授業協議会の指導・助言や観察、実験演習の講師を務めた。また、CST担当者が岡山市で開催する理科部会研修会に3回指導・助言者として参加した他、倉敷市、総社市、津山市、赤磐市などの理科研修会の講師も務めた。                      (3)CSTが日常の授業改善や地域での研修会・研究会等で活用できる教材や資料を作成し、講座で演習等を行って検討を加えるとともに、現職教員の所属する学校現場で活用しやすい教材や資料となるよう改善を行った。                      (4)CST及び地域の教育団体や学校からの支援の要請に応じて、ステップアップ研修会や地域の理科研究会等で実施される研究授業等の実施内容や学習指導案に対する相談を受け、実地指導や助言等を行った。教育現場における理科教育を支援できるよう、地域で活動するCSTを間接的に援助したり、地域で行われる研修会や研究会への協力を行った。</p>